

大学通信教育等における情報通信技術の
活用に関する調査研究協力者会議(第5回)
説明資料

2012年12月19日

ビジネス・ブレークスルー大学

本日の内容

- 大学概要 3
- 入学時学生分析・データ 4
- オンライン授業の設計 10
- オンライン学生支援 18
- システム 26
- オンライン教育支援組織 30
- 特例措置について 32

BBT大学経営学部 概要

名称

ビジネス・ブレイクスルー大学(略称:BBT大学)

学部・学科

経営学部 グローバル経営学科/ITソリューション学科

設置年月

2010年4月(大学院は2005年4月開学)

在籍者数

733名

教育理念

(一部抜粋)ビジネス・ブレイクスルー大学は、知的創造を礎に、**国際的視野と開拓者精神**を持ち、先駆的指導者たらん人格を涵養し、世界社会に貢献する



キーワード

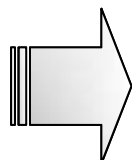
議論と集団IQ(集合知)を生かした学び、アクティブラーニング

入学時学生分析・データ

実践的オンライン高等教育は職業人にニーズがある

通学制経営教育

- 学習環境が固定的
 - 決まった時間をとられる……
 - 移動時間、コストがかかる……
 - 最新の経営課題を学ぶにくい
- クラス討議
 - 議論に結論が出ず、消化不良
 - 議論が頭に残らず、学んだ知識やスキルの定着が困難
- 親密性
 - 毎日顔を合わせるによって親しくなる
- できない理由
 - 仕事を辞められない、離れられない
 - 必ずしも通学できる物理的環境にない
 - 必ずしも通学できる時間的余裕がない

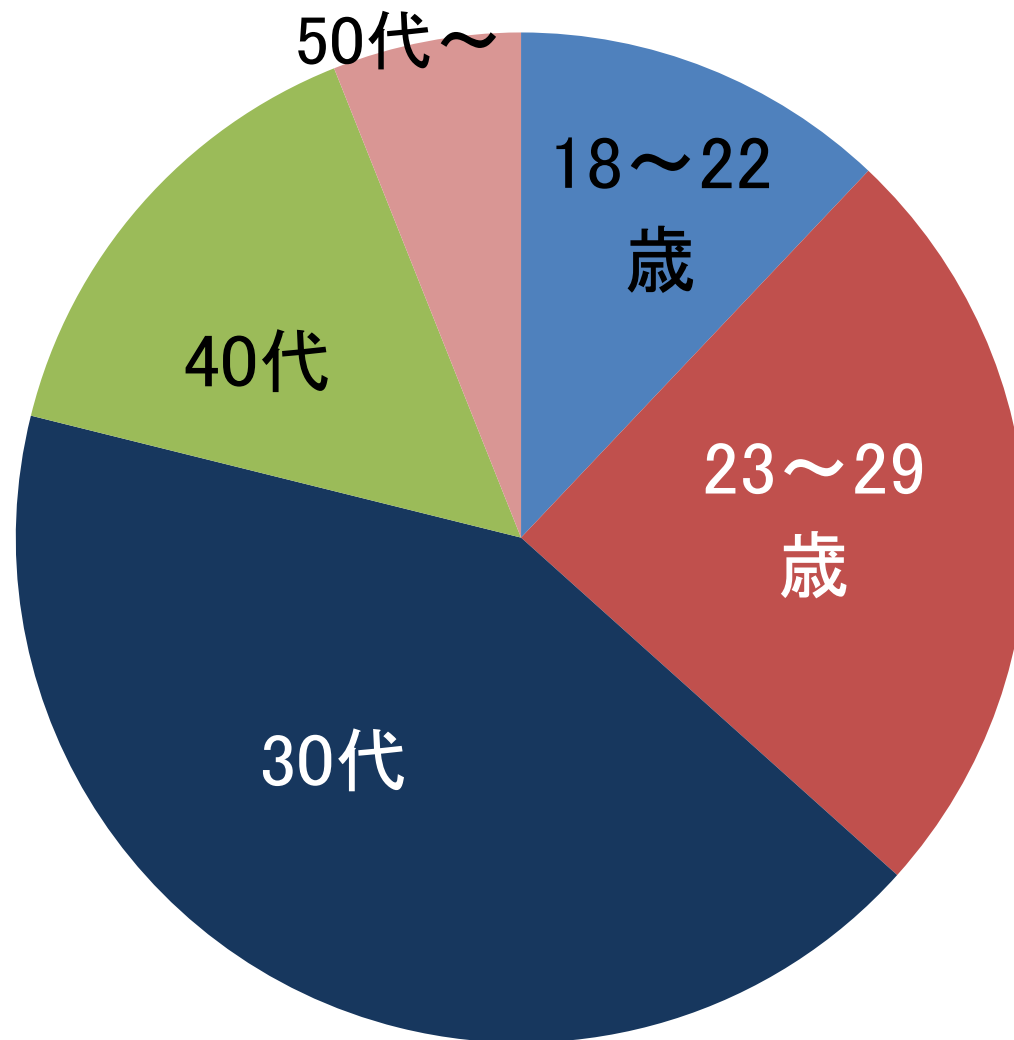


BBT大学の遠隔教育による経営教育

- 学習時間がフレキシブル
 - 自分の好きな時間に学習可能
 - 自宅など都合の良い場所で
 - 最新の経営課題を学ぶことが可能
- クラス討議
 - 時間制限なし、議論に結論が見出せる
 - 毎日議論して毎日考えるクセをつける
 - 議論の履歴が残る/1つの課題について深掘可能
- 親密性
 - 毎日議論することによって、高いレベルでの知の共有が図れる、知のネットワークを築ける
- いつでも、どこでも、学習できる
 - オンデマンド方式のブロードバンドで講義を受講し、オンラインクラスルームで議論。事実に基づいた議論で、自分の分析結果を発表、議論

実践的オンライン高等教育は職業人にニーズがある

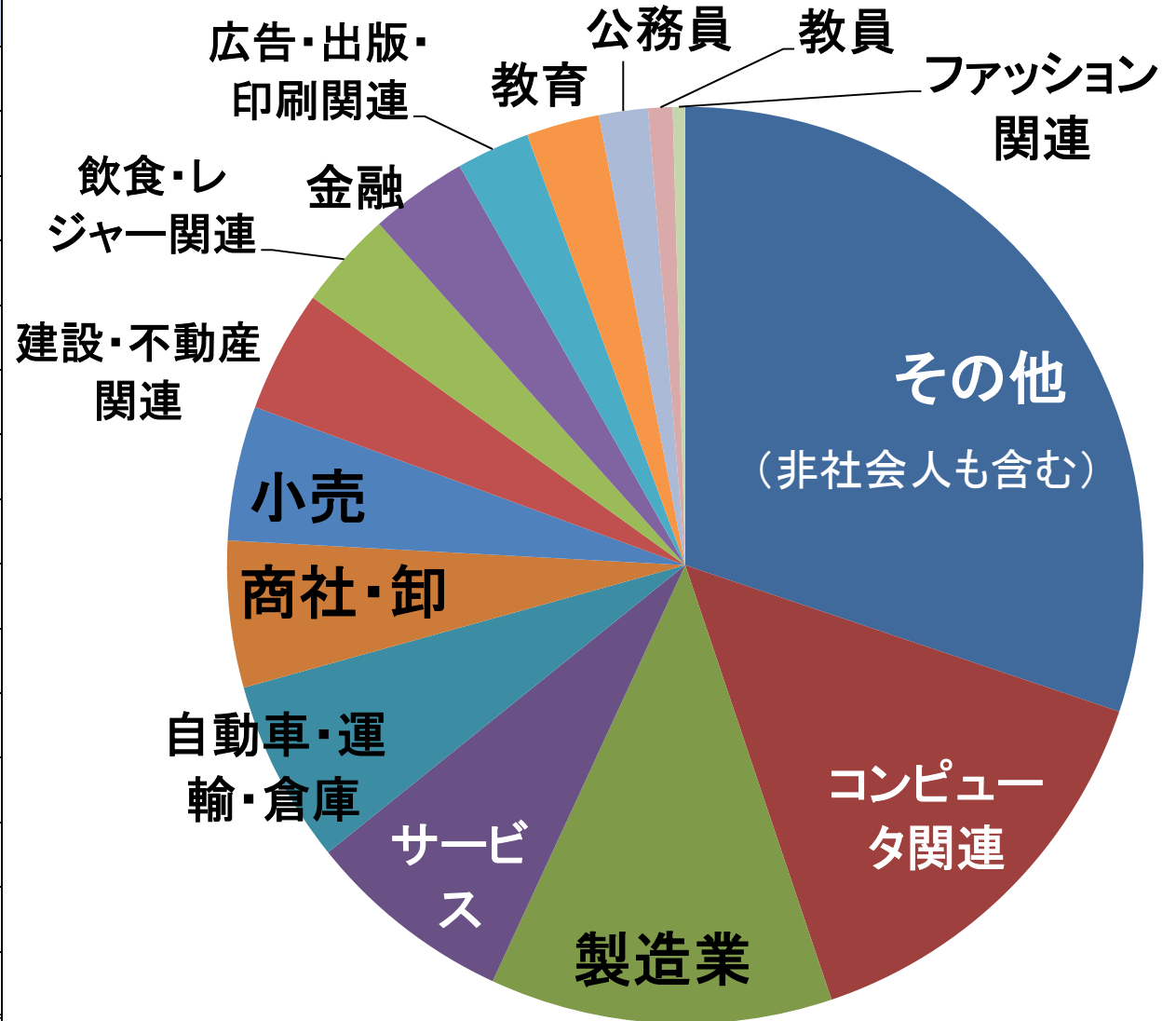
年代別	%
18～22歳	12.1%
23～29歳	24.6%
30代	42.2%
40代	15.1%
50代～	6.0%
総計	100.0%



2012年度入学232名対象

業種別割合

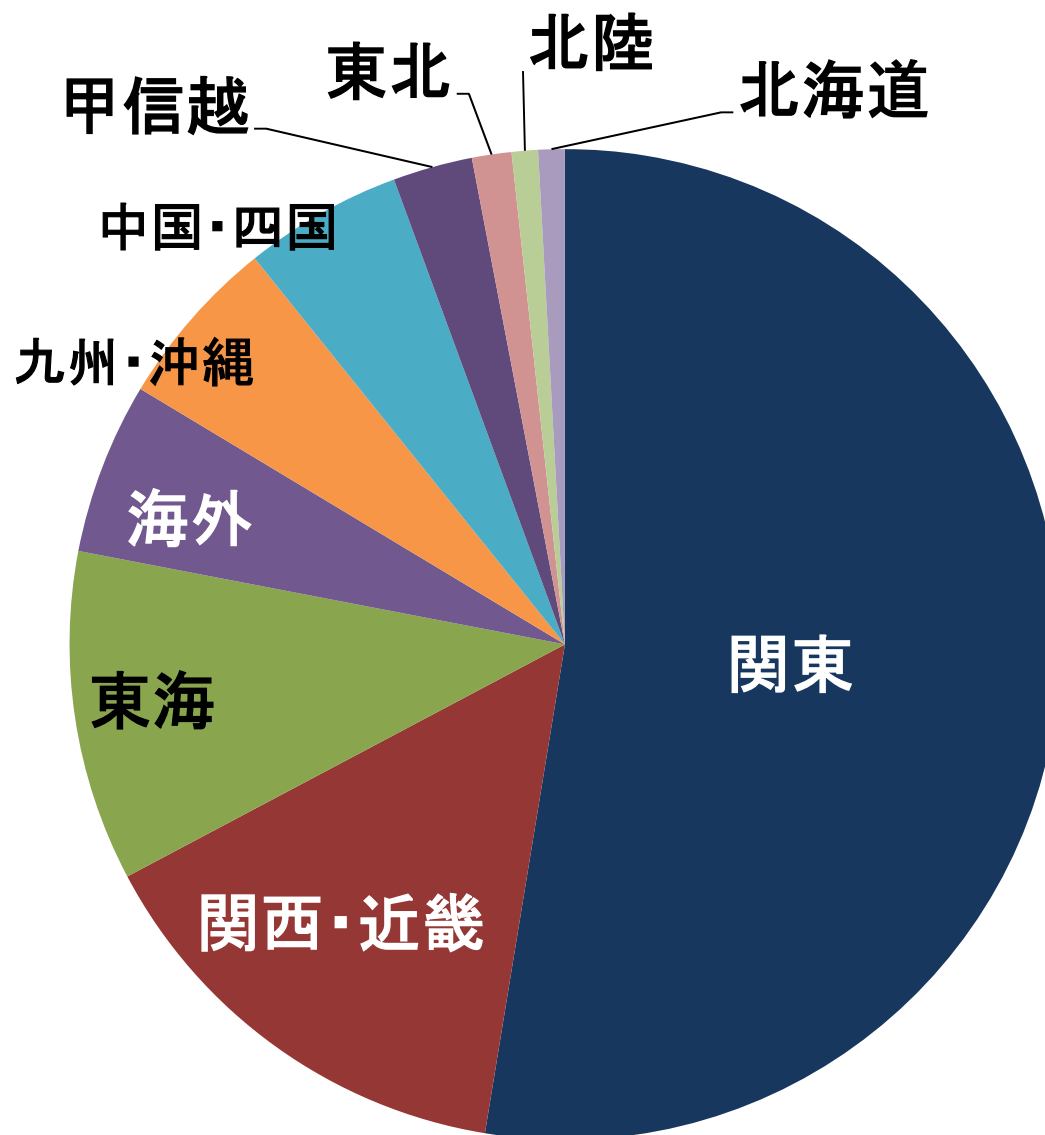
業種別	%
その他	30.2%
コンピュータ関連	14.7%
製造業	12.1%
サービス	7.3%
自動車・運輸・倉庫	6.5%
商社・卸	5.2%
小売	4.7%
建設・不動産関連	4.3%
飲食・レジャー関連	3.4%
金融	3.4%
広告・出版・印刷関連	2.6%
教育	2.6%
公務員	1.7%
教員	0.9%
ファッション関連	0.4%
総計	100.0%



2012年度入学232名対象

居住地域別割合

地域別	%
関東	52.6%
関西・近畿	14.7%
東海	10.8%
海外	5.6%
九州・沖縄	5.6%
中国・四国	5.2%
甲信越	2.6%
東北	1.3%
北陸	0.9%
北海道	0.9%
総計	100.0%



2012年度入学232名対象

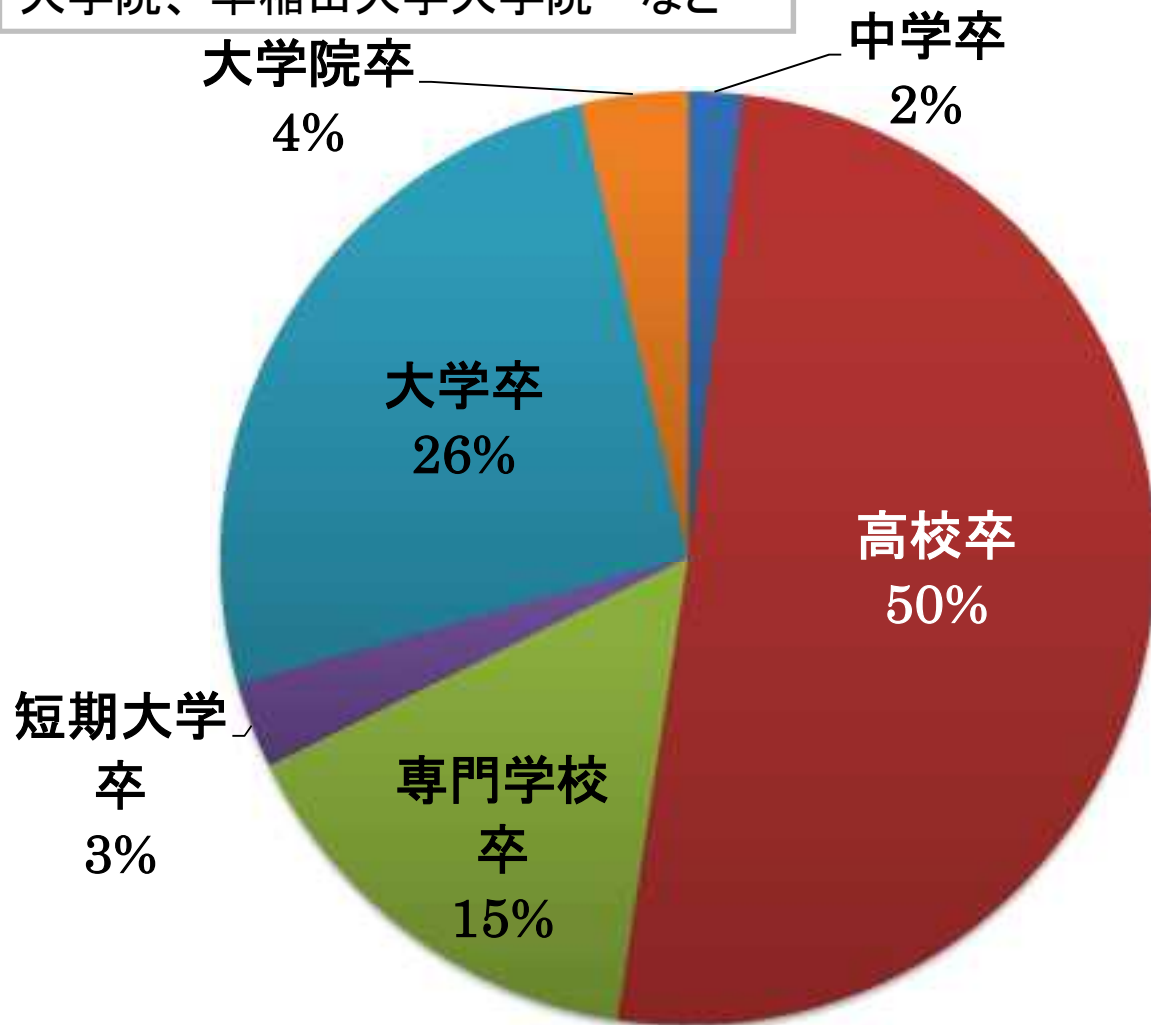
最終学歴

〈大学院卒 出身大学〉

東京理科大学大学院、日本大学大学院、神戸大学大学院、日本女子大学大学院、早稲田大学大学院 など

〈高校卒 出身高校〉

札幌西、青森、開成、渋谷教育学園幕張、桐朋女子、都立西、東京学芸大付属、横浜翠嵐、聖光学院、刈谷高、四日市、帝塚山、清風、神戸、修道、岡山白陵、安積、修猷館、昭和薬科大付属 など



〈大学卒 出身大学〉

東京大、一橋大、横浜国立大、大阪大、神戸大、九州大、青山学院大、國學院大、上智大、ICU、慶應大、早稲田大、北海道大、東北大、新潟大、筑波大、芝浦工業大、東海大、東京電機大、東京理科大、東海大、法政大、明治大、立教大、大阪経済大、関西大、同志社大、立命館大 など

オンライン授業の設計

授業1回当たり発言数

■1年次秋期科目の発言数

科目名	発言数	授業回数	学生数	1コマあたり 1学生あたり 発言数	授業形態
スタートアップゼミ	1,996	8	111	2.25	個人学習
情報リテラシー入門	626	8	50	1.57	個人学習
情報リテラシー	2,689	15	87	2.06	個人学習
ITリテラシー	2,544	15	120	1.41	個人学習
英語基礎	1,512	15	79	1.28	個人学習
簿記論	900	15	142	0.42	個人学習
統計学	1,432	15	154	0.62	個人学習
心理学から見た宗教	1,545	15	60	1.72	個人学習
マーケティング基礎	8,877	15	224	2.64	協調学習
国際事情 I	2,884	15	199	0.97	協調学習

- 科目登録をしたが未受講の学生も平均2割存在するため、左記の1.2倍程度が実質平均。
- 1授業回に5回以上発言する活発層も多い。
- 発言を必須としない「簿記論」「統計学」「(一部)IT系」でも発言あり。
- 同期型オンライン講義での発言数を除く(国際事情 I など)

課題：オンラインにおけるディスカッション中心授業

オンラインディスカッションは表情が見えず難しい

- 教える側・学ぶ側双方にオンラインリテラシーが必要
- ・ 学ぶ側：基本的な書き方、オンライン上のエチケット等
 - ・ 教える側：オンラインメンタリング、ファシリテーション等

意見を述べることへの慣れの差が大きい

- ・ 従事している職種・業種・役職・年齢差によるディスカッション活発度の違いは顕著

動画講義＋ディスカッションの学生にとっての負担増

- ・ 書くことによる「意見表明」、ファクトベースの「議論」はデジタルシンキングに有用だが時間がかかる。論理的に数行書くのに膨大な時間がかかっている学生が多い
- ・ オンデマンドの動画講義は教室講義に比べ伝達量は1.5-2倍(教員ヒアリング)はある

<対応>

- ・ 一層充実した事前ガイドの準備
- ・ 初年次教育の強化(すでに実行済み)
- ・ 若年層への働きかけ
- ・ オンラインでの学び方に関する補習

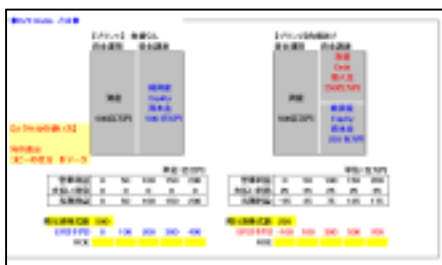
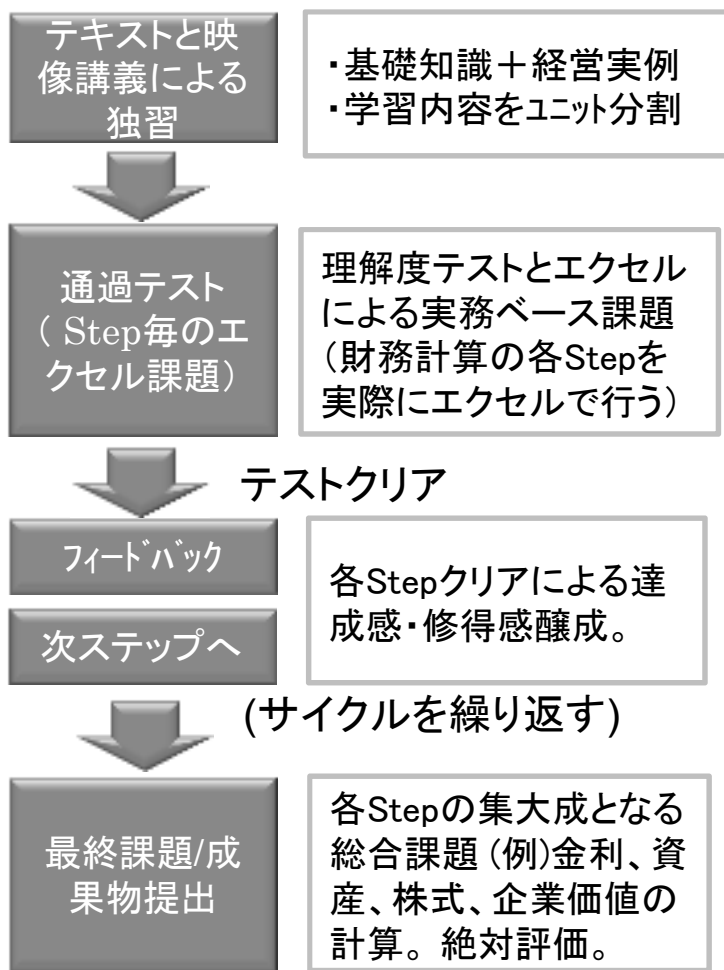
メディア授業で利用している主な技術

	ツール	概要	備考
非同期型 1:n	AirCampus	<ul style="list-style-type: none"> ・殆どの授業はAirCampus上での非同期映像授業と非同期ディスカッションで構成。 ・一部はPDF/HTMLテキスト。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集合知重視の観点から、議論と質疑をシェアし、学びを動機づける。
非同期型 1:1	<ul style="list-style-type: none"> ・Eメール ・Webベース課題提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・質問はEメールも可だが、基本はAirCampusとするよう指導。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドロップアウト防止のメンタリングにはEメールを活用
同期型 1:n	<ul style="list-style-type: none"> ・Adobe Connect ・Skype 	<ul style="list-style-type: none"> ・主に課題フィードバック時及びコミュニケーション系科目で活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・即時の質問・フィードバックが可能のため満足度は高い。但し時間を固定され、社会人は全員出席は困難。
同期型 1:1	<ul style="list-style-type: none"> ・Skype ・Connect ・電話 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語スピーキング(4年間必須)、コミュニケーション系科目で活用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生支援のコミュニケーションにはSkypeと電話も活用。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・サーバ ・Ustream ・Hangouts 	<ul style="list-style-type: none"> ・IT演習環境用のサーバは大学にて用意。 	<ul style="list-style-type: none"> ・UstreamやGoogle Hangoutsは課外活動で利用。遠隔の学生同士でも多様な手段でコミュニケーションができるよう導入授業で指導。

完全習得学習を目指した講義構成

プログラミング等IT系、経済学・会計・財務系の科目等、積上げ式の学問体系の科目群は、進捗や理解度に差が出やすく、躓きによるドロップアウト率も高い。完全習得学習やPSI(個別化教授システム)を参考にしつつインストラクショナルデザインを行う。

事例:財務科目を教務担当と教員協働で改善しドロップアウトを大幅改善したオンライン設計(伝統的講義方式に工夫を加えた)



	企業A	企業B	企業C
株数(円)	1,030	298	404
発行済株式(百万株)	985	294	404
配当利回り(実績)	2.83%	2.32%	1.33%
PER(実績)	134.81 倍	37.38 倍	108.10 倍
PBR(実績)	1.17 倍	0.88 倍	1.00 倍
EPS(実績)	1.30 円	8.08 円	118.28 円
営業利益率	7.81 倍	6.22 倍	1.00 倍
時価総額(百万円)	1,801,670	113,404	
ネット・ブック(百万円)	1,865,180	208,168	390,891
ネット・ブック(百万円)	2,868,733	329,572	

通過テスト未達成であれば再度講義映像とテキストへ

・質疑やフィードバックは通常授業以上に即時を心掛け、LA中心に教員も。
・教員はライブ質疑・フィードバックも実施。
(なおLAはMBA以上かつ職場における財務のプロフェッショナル)。

IT科目群におけるオンライン講義・演習

プログラミング等IT系の科目群は、前頁の財務系以上に進捗・理解度の個別差が大きい。躓きによるドロップ率防止を重視したオンライン授業設計を行う。

■学習目標の基本コンセプト

理論を踏まえ現実の経営で適用可能な最終成果物を課す

【課題例】

- ・プログラミングRuby: Twitterを応用した次世代サービスの開発
- ・Web基礎: 所属組織または自分自身をアピールするHP作成

■オンライン授業における工夫・改善事例

1. 映像講義で教員が入力しながら解説

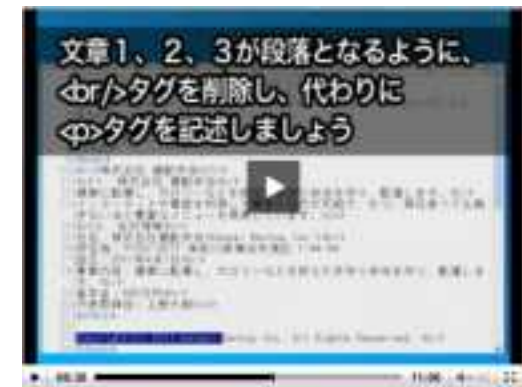
- ・ 学生は講義ビデオを見ながらプログラミング可能

2. リアルタイム質問受付、リアルタイムフィードバック

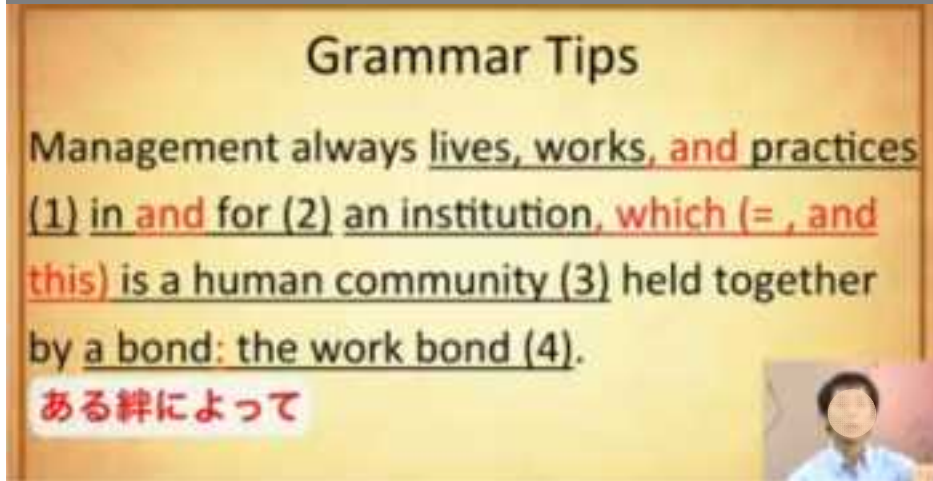
- ・ Skype及びビデオ会議システムを利用
- ・ 躓いた箇所の画面を共有し即時フィードバック

3. 提出課題に対するフィードバック

- ・ アウトプットに加えて、より深い理解が可能



英語科目



講義: 低学年では英文読解に必要な文法・語彙・テクニック等を学ぶ。高学年では教員の解説を伴い経営管理について書かれた原書を読む。読む力を養うと同時にビジネスパーソンに必要な素養を身につける。

R

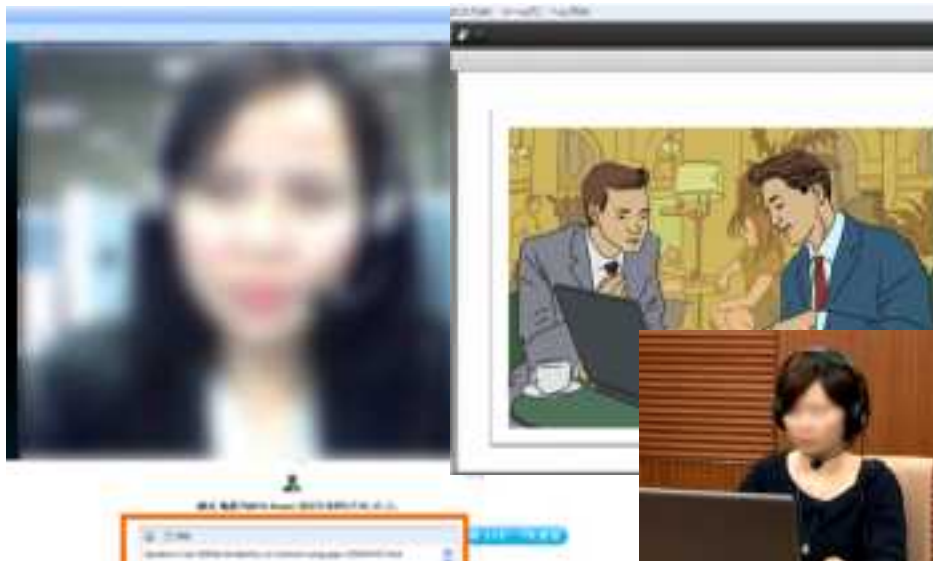
W

S

L

L

英会話: 開学時は半期で40分x15回(1:3)で実施。学習効果の観点から今年度より25分x40回(1:1)に改善。



作文課題: 講義視聴後に、LMS上で学んだ文法や語彙等を用いた作文練習や自分の考えを論理的に書く練習をする。教員・LAからは適宜学生の投稿内容にフォロー、間違いの指摘などが入る。



同期型授業の取り組み



科目名:コミュニケーション実践
教員と1:1で最終試験実施

内容: 学生は就転職予定者、教員は採用側社長という場面設定。学生は事前に対象の企業について情報を収集。オンラインの面接試験では教員と面接後、教員からフィードバック実施。講義で学んだ事柄が実際(対面)で再現できるかを評価。

国際事情 I

科目名:国際事情 I

リーダーシップ醸成に資する「学生サミット」

内容: 科目開講中に全3回のサミット(オンラインディスカッション)を実施。各グループにリーダを配置し、リーダーシップの醸成を促す。

進め方:

オンライン会議システムを利用し、各国代表として模擬国際会議を行う。ディスカッション後に教員からの即時フィードバックも行う。リーダ以外の学生は、チャット参加で各グループリーダを応援。



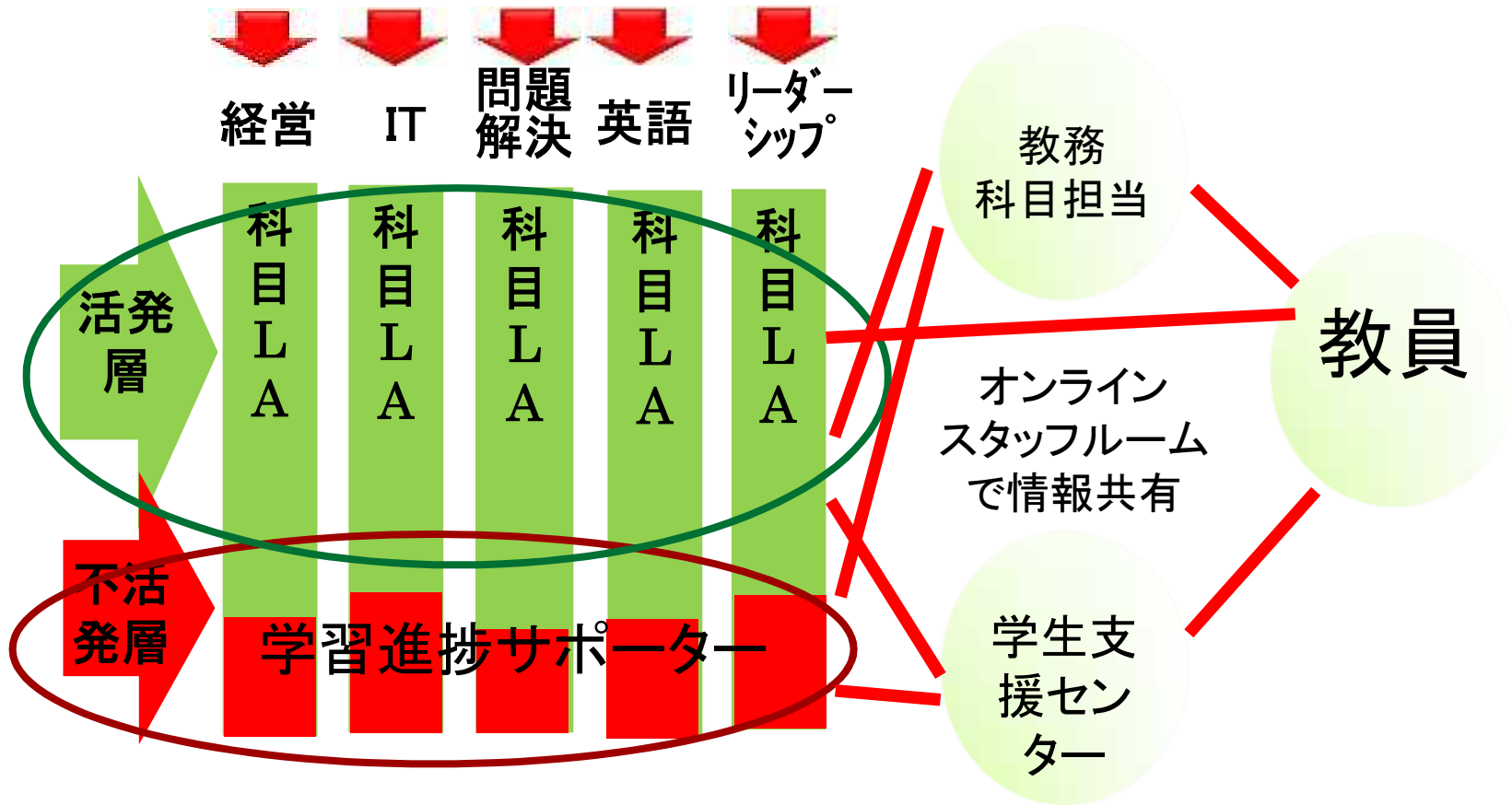
コミュニケーション実践

オンライン学生支援

学生支援：専門性を持った役割分担で学生を支援

教育目標： 国際的視野と開拓者精神を持つ人材輩出

教育方針： Output重視(議論での集合知と企画書等成果物)



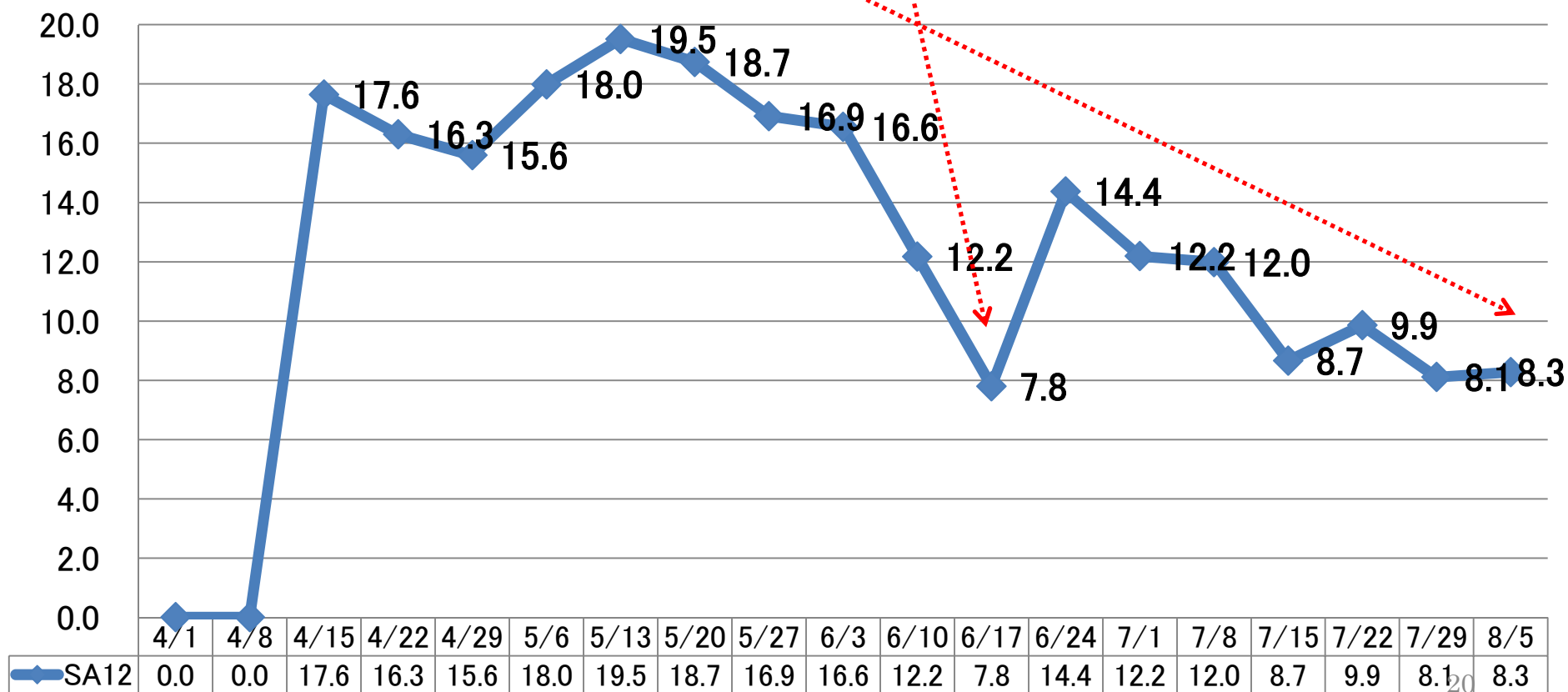
ドロップアウト誘発機会 (DTE=Dropout Triggering Event) を捉えた学生支援

データに基づきドロップアウトの契機となる時点を特定し、集中的に学生支援を行う。

傾向

- DTE1: 開講直後＝最初から躓いている不活発層の存在
- DTE2: 前半と後半の講義入替わり時期: 学習意欲の息切れ
- DTE3: 閉講時期: 次の半期の受講をあきらめる

【2012春期入学生】一人あたり発言数推移



学生支援:オンライン初年次教育の継続的改善

課題

- ・入学直後からドロップする層の存在
- ・自己管理の困難さと孤独感に起因する、オンライン学習特有のドロップの存在
- ・BBTUの議論を通じた学びについていけない学生層の存在

施策

既存の新生施策(入学準備用掲示板、オリエンテーション・履修ガイダンス)の実施に加え、下記の改善・科目新設を行った

オリエンテーション、履修ガイダンスの工夫

- ・対面での授業体験と人間関係形成
 - ・オリエン会場でPC(全員分貸与)を使った模擬ディスカッション(不明点はその場で職員がフォロー)
 - ・学生・教員・LAの顔の見える交流
 - ・履修計画の個別相談

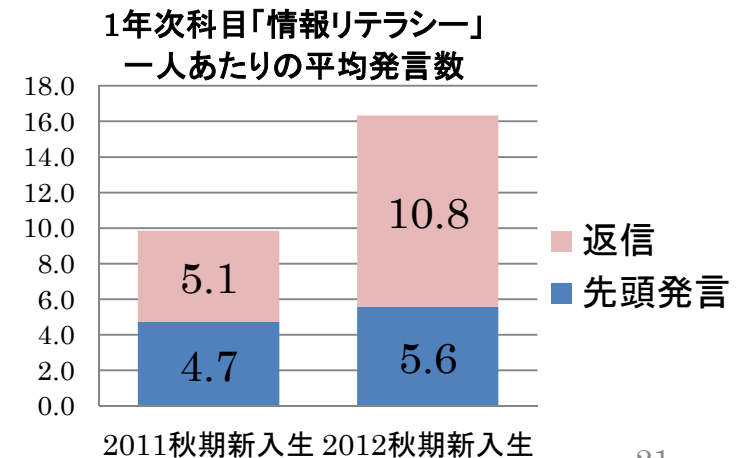
新設導入科目「スタートアップゼミ」

- ・教育理念と人材像の提示
- ・そのための第一歩として、議論と集合知で学びあうための「書き方」講義(反論・賛同など議論の仕方含む)
- ・個別Skype面談による学習計画支援

結果

- 昨年まで一定数存在したAirCampusへの未ログイン学生はゼロに
- 授業発言数が1.7倍増加(昨年比)
- 入学後すぐの段階で、議論が成立するように

※ツリー構造の議論で、返信数が増加。自分の意見投稿だけでなく、相互コミュニケーションがより活発になったといえる



初年次教育の取り組みの様子(2012年秋期)

オリエンテーションの様子

模擬ディスカッションの様子



導入科目「スタートアップゼミ」の様子

BBT大学の教育理念を伝える



ライティング講義→

意見と理由の記述パターン

- 冒頭の主題文に、自分の意見を記述する。支持文にはその理由を記述する。

意見と理由の記述パターン

- 自分の意見や考えを最初に述べる。
- 自分の意見や考えを述べてから、理由を述べる。
- 理由が複数あるときは、理由を記述してから意見を述べる。
- 最後に、要約として、自分の意見や考えをもう一度述べる。

私は、一に_____が_____である。その理由として、_____が挙げられる。_____が挙げられる。

私は、_____が_____である。その理由として、_____が挙げられる。_____が挙げられる。

ライティングテスト

- 00:00:11 準備と理由の記述(10分)
- 00:01:18 論文1→
- 00:02:18 論文1→の開始
- 00:03:18 論文1→

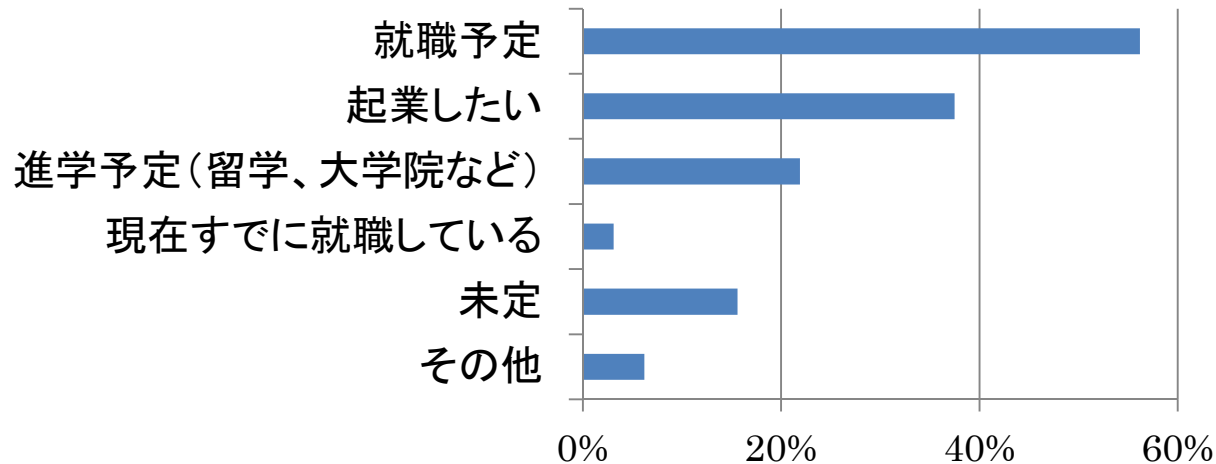
学習計画・タイムスケジュールの個別Skypeフィードバックの様子(学生支援センター職員がアドバイス)



非社会人学生の進路志望傾向

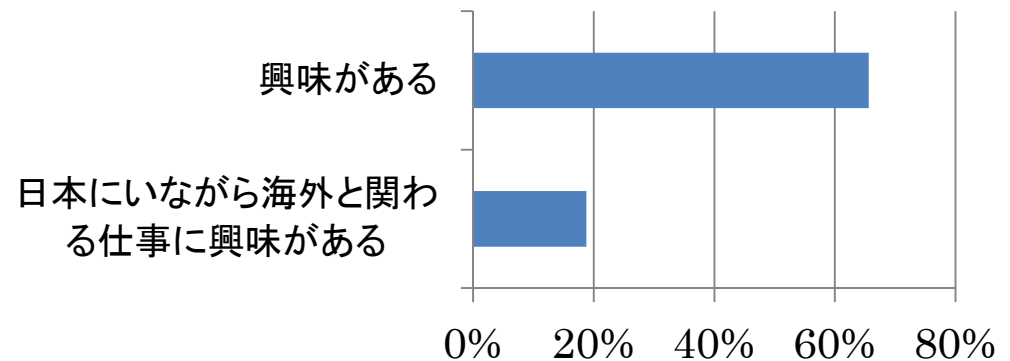
起業志向が40%弱と非常に高い

Q. 卒業後の進路希望



85%が海外と関わる仕事に興味あり

Q. 海外で働くことへの興味



2012年11月実施の就職意識調査(24歳以下の在校生60名に実施、有効回答数32)

課外活動

【BBT大学生 他流試合イベント】

●H.I.S.社 x BBT大学 ツアーアイデアコンテスト(2011年春実施)

初年次科目「マーケティング基礎」と連動。学外からも公募

●経済産業省 x BBT大学 Cool Japan ビジネスアイデアコンテスト(2012年春実施)

●新興国ビジネスコンテスト(2013年春予定)

「日本から新興国へ進出する事業者を創出・育成・支援する」を目的にJETRO(日本貿易振興機構)と実施

【直近で実施した課外セミナーについて】

- 2012年10月27日 青野仲達先生 @博多
仕事で「結果を出す」ための英語の書き方
- 2012年11月3日 野村邦彦先生 @大阪
ITの潮流と経営
- 2012年11月10日 三城雄児先生 @東京
グローバルキャリア塾
- 2012年11月17日 西田弘次先生 @仙台
その場で身に付ける！実践コミュニケーション学
- 2012年11月30日 原田隆史先生 @大阪
研修と思うな、人生と思え！～自立型人間と組織の育成について～
- 2012年12月8日 西田弘次先生 @広島
その場で身に付ける！実践コミュニケーション学



課外活動

●グローバル忘年会

全7会場を中継でつなぎ、リアルとバーチャルを融合した形で、場所が離れた学友同士での懇親会が実現。

※全8会場(東京・大阪・名古屋・福岡・札幌・上海・マニラ・個人宅)。参加者合計約130名。



●科目成果発表大会

春期・秋期の科目成果物のうち、学内で選抜されたものをコンテスト形式で発表。

優秀成果物を称え、優秀学生から学ぶことが目的。6名の学生が選抜されて決勝プレゼンを実施。



システム

自己調整学習を促すLMS

直感的に学習進捗が分かるよう、カラーやビジュアル表示→

● とても良い ● 良い ● 悪い ● とても悪い

The screenshot shows the BBT University LMS interface. At the top, there's a navigation menu with options like 'ホーム', '検索', 'お知らせ', 'お問い合わせ', and 'ログイン'. Below the header, there's a message area with a yellow warning box and a blue information box. The main content area displays course progress tables for two semesters: 2012 秋期 (Fall) and 2012 春期 (Spring).

2012 2012 秋期	コース名	スケジュール	受講生 / 定員	進捗率 / 合格率	評価
02-2012 (秋期)	マーケティング実践	1/15 (Tue)	34 / 34	7 / 4	●
02-2012 (秋期)	マクロ経済学	1/15 (Tue)	22 / 22	1 / 1	●
02-2012 (秋期)	English Communication 4	2/26 (Tue)	12 / 12	16 / 12	●

2012 2012 春期	コース名	スケジュール	受講生 / 定員	進捗率 / 合格率	評価
02-2012 (春期)	グローバル経済と経営 2	3/4 (Mon)	44 / 45	42 / 54	●
02-2012 (春期)	問題解決基礎 1	3/21 (Sun)	95 / 100	20 / 2	●

The screenshot shows a Facebook post from a user named 'Romy Kato'. The post is in Japanese and discusses the BBT online learning experience. The text of the post is as follows:

BBTオンライン、明日から気合い入れねば。。。
 問題解決はまとまった時間がないと気合いが入らないし。。。
 取りあえず、問題解決以外は「快晴状態」にしているので気は楽ですが。(▽)

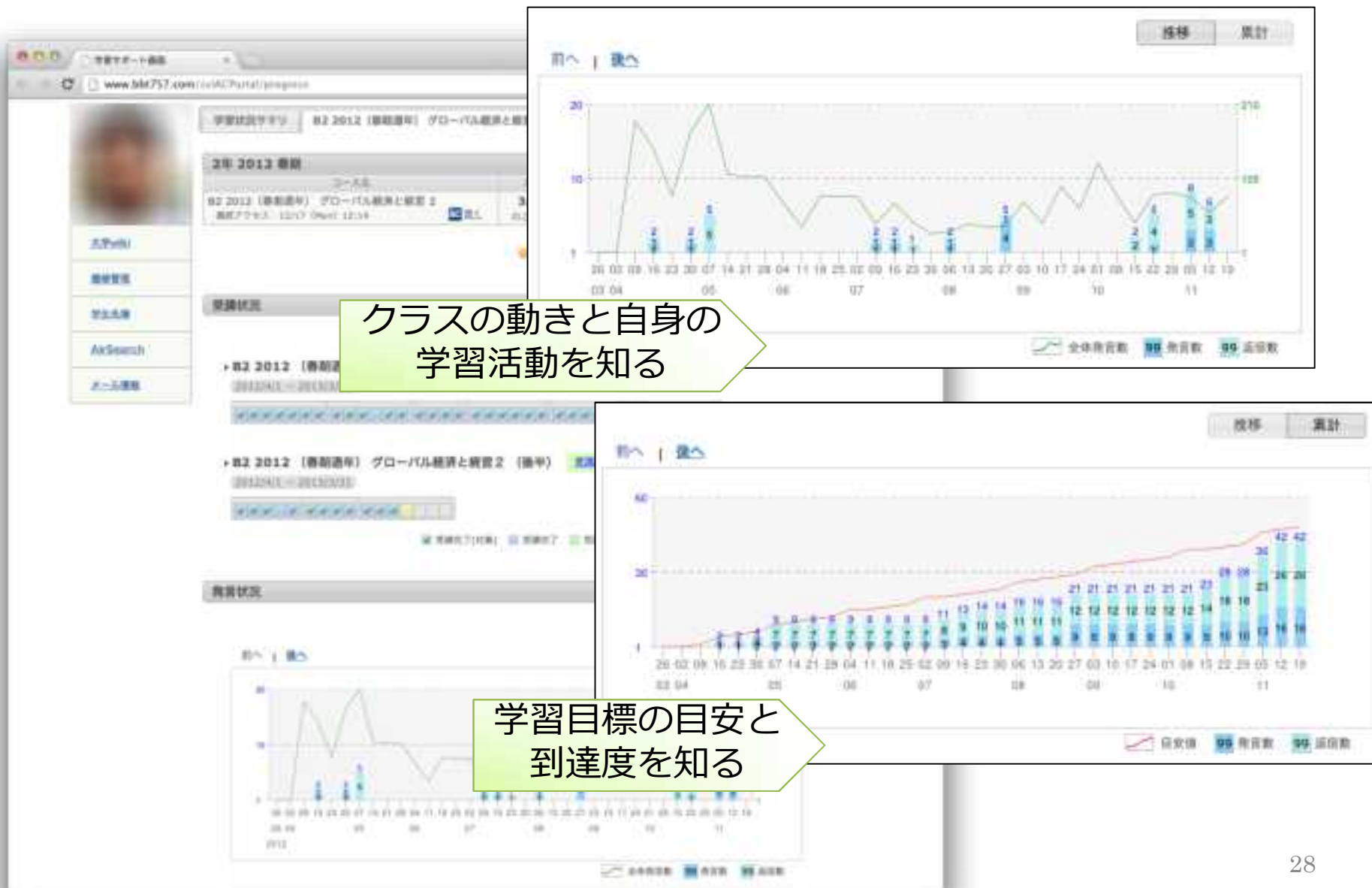
以下のようなペースメーカーの方と一緒に学べて、私は幸せ者です！☆

私も疲れてます…あと1年半で終わるか、2年半の道を行くかまだ迷ってます。

FacebookやTwitter、ACサロンでの話題にもしやすくクラス外コミュニケーションを促進

自己調整学習を促すLMS

学習した経営・ITの体系を経営実務で実行し結果を出す(出口像:リーダー)ことを念頭に置いた設計

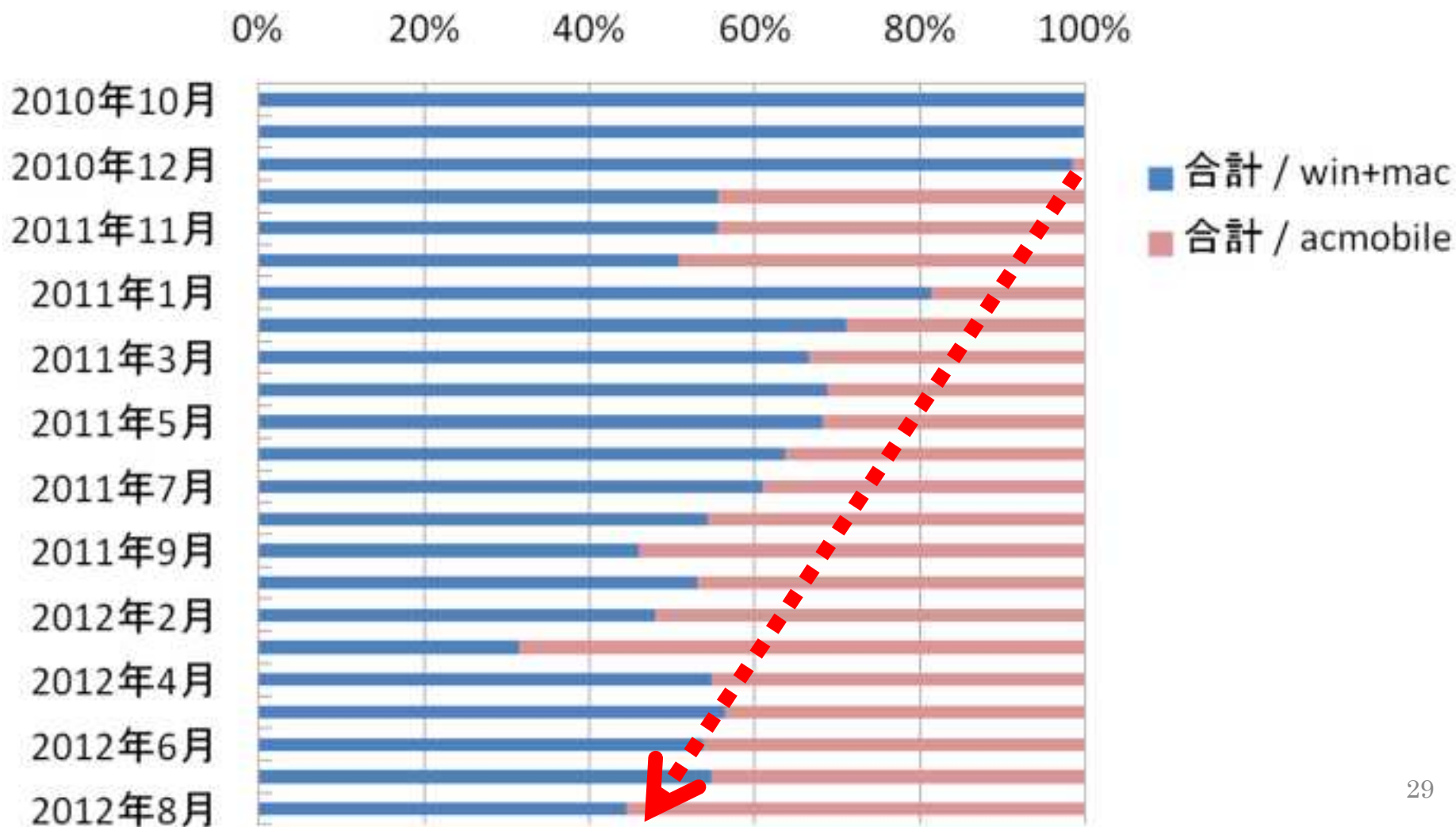


学生のPC/モバイルの使い分けの現状

大学としては、受講ガイド等で「基本はPC、モバイルは補助」と明記。一方でモバイル利用率は過去2年で一貫して増加傾向。2012年8月時点でのACMobile利用率は56%。

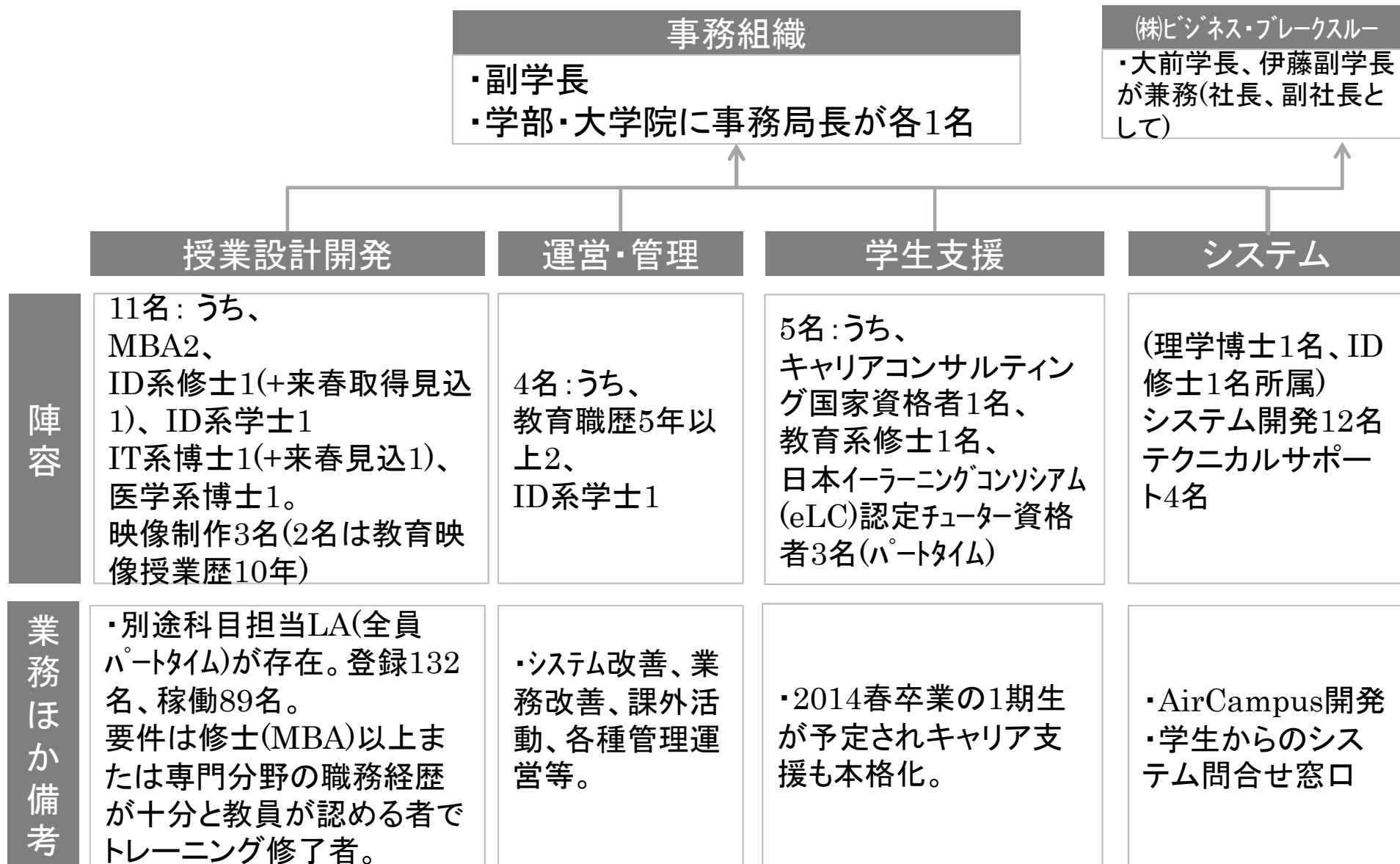
■受講状況(PC/モバイル)

月別受講数



オンライン教育支援組織

本学経営学部教育関連事務局組織



*ID=インストラクショナルデザイン

*別途学生募集組織、事務管理組織が存在。

特例措置について

現状の特例措置の利点や課題

「キャリア教育の推進」に一定の寄与

利点

- ・100%オンラインのため、職業人に学習機会を提供することが可能になり、キャリアアップに貢献できる
- ・非社会人も、職場体験と海外体験を学習と同時並行でき、幅広い人材育成が可能に
- ・身体的問題のため通学困難な学生に教育の機会を提供できる
- ・海外在住者への教育提供と、交流によりグローバル人材育成に寄与
- ・オンライン高等教育の発展に資する

オンライン大学への理解不足が障害になる場合も

課題

- ・オンライン教育、大学の社会的地位の低さ
- ・オンライン大学への理解不足により、潜在的学生の入学の妨げになる場合も
- ・非社会人の望むキャンパスライフの提供へは改善の余地あり
- ・大学への帰属意識向上のため、入学式等対面でのイベントが効果的な場合も

飛躍のためにはオンライン教育の理解推進、国や区の協力が必要

改善希望 点等

- ・オンライン教育の理解を深めるため、国民への啓発活動や制度面での支援が必要
- ・区の施設利用、千代田区民の巻き込みを促進する広報など、区のバックアップ強化が必要（区の体育館等施設を優先的に使用できると有難い、など）
- ・日本のオンライン高等教育のグローバル化のため、海外オンライン大学との連携や調査研究などへの支援が望まれる